

\* 機械器具 (6) 呼吸補助器

管理医療機器 酸素治療フローメータ (37132000)

## ダイヤル式流量計 Perflow multy OX15

### 【警告】

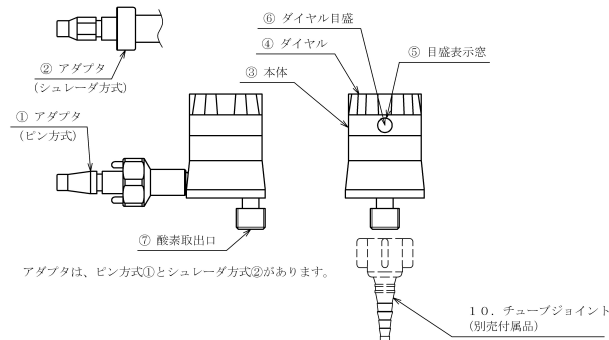
- ・破損した機器は使用しないこと。  
[ 発火や機器の飛散の原因となります。]
- ・アダプタのガス別特定部のピンが折れたり、変形した機器は絶対に使用しないこと。  
[ 他のガスの配管端末器 (アウトレット) につながり、ガスの取り出し間違いの原因となります。]
- ・ダイヤルは急激に回して供給開始しないこと。  
[ 発火の原因となります。]
- ・配管端末器 (アウトレット) より本器を取外すとき、本器に軽く手を添えて両手で行うこと。  
[ 本器が飛び出すことがあり、けがの原因となります。]
- ・改造やご自身での修理は絶対にしないこと。  
[ 正常な機能や安全を保てなくなります。]
- ・継手部よりガス漏れがある場合、使用しないこと。  
[ 発火の原因となります。]
- ・本器に過剰な外力を加えないこと。  
[ 機器破損の原因となります。]
- ・使用前には、必ずチューブ、加湿ボトル等を接続し、患者へ酸素ガスを供給する状態で所要流量が確保できていることを確認すること。
- ・使用前点検は必ず実施すること。
- ・保守点検は必ず実施すること。
- ・点検で異常の発見された機器は絶対に使用しないこと。
- ・滅菌、殺菌、消毒はしないこと。  
[ 機器破損の原因となります。]
- ・機器内部に液体を侵入させないこと。  
[ 機器破損の原因となります。]
- ・配管端末器 (アウトレット) に本器を接続するとき、カチッと音がするまで差し込んで使用すること。
- ・清掃は、取扱説明書をよく読んでから行うこと。
- ・ダイヤル目盛に落書きや、色を塗ったりしないこと。
- ・加湿ボトル等を使用する場合は、流量を確認した上で使用すること。
- ・加湿ボトル等を使用する場合は、その取扱説明書、添付文書をよく読んでから使用すること。

### 【禁忌・禁止】

- ・酸素取出口、及び接続した器具の出口を塞がないこと。  
[ 圧力がかかり、破裂するおそれがあります。]
- ・使用中は絶対に火気類を近づけないこと。  
[ 激しく燃え、火災の原因となります。]
- ・油分は付着させないこと。  
[ 発火の原因となります。]
- ・医療用酸素ガス以外使用しないこと。
- ・ダイヤル目盛の中間位置で使用しないこと。  
[ 酸素ガスの流量が不足したり、流れ出ない場合があります。]

### 【形状・構造及び原理等】

#### 1. 構成



- (1) 本体  
(2) チューブジョイント (別売付属品)

#### \*2. 仕様

| 使用ガス | 酸素ガス                                              |
|------|---------------------------------------------------|
| 流量計  | 目盛範囲 0 ~15 L/min                                  |
| 流量精度 | 1.5L/min 以下の設定値 : ±30%<br>1.5L/min を超える設定値 : ±20% |

#### 3. 寸法および質量

寸法: 64±5mmH×38±5mmW×100±10mmD  
質量: 約 190g

#### 4. 作動・動作原理

医療用酸素ガス配管設備の配管端末器 (アウトレット) からアダプタ①又は②を介して導かれた酸素は、サイズの異なる穴が開けられた本体内のディスクに連動したダイヤル目盛を設定することにより、所要の流量に調整される。その調整された酸素は酸素取出口⑦より放出され、患者へ供給する (非加熱式加湿器等の医療機器を経由する場合もある)。

#### \*【使用目的又は効果】

医療用酸素ガス配管設備の配管端末器 (アウトレット) に取付け、配管設備から供給される酸素を所要の流量に調整し、酸素を患者へ供給する (非加熱式加湿器等の医療機器を経由する場合もある)。

#### \*【使用方法等】

使用方法、使用後手入れの詳細については、取扱説明書をご参照ください。

1. ダイヤル目盛⑥を「0」にあわせる。
2. アダプタ①又は②を酸素用配管端末器 (アウトレット) に差し込み接続し、手前に引いて配管端末器 (アウトレット) から外れないことを確認する。
3. お客様でご使用のチューブ、または加湿用ボトルを酸素取出口⑦に接続し、ゆるみがないことを確認する。
4. ダイヤル④を反時計方向へ回し、ダイヤル目盛⑥を所要流量の数字にあわせる。
5. 酸素ガスが出ていることを確認して供給を開始する。
6. 酸素供給を一時停止したいとき、あるいは短時間使用しないときはダイヤル④を回し、ダイヤル目盛⑥を「0」にあわせ、酸素ガスが出ていないことを確認する。
7. 使用後は速やかに配管端末器 (アウトレット) より本器を取りはずして手入れをおこなう。

取扱説明書を必ずご参照ください。

### 【使用上の注意】

- ・取扱説明書を必ず読み、不明な点があれば取扱説明書で再度確認してから使用すること。
- \* 〔正常な機能や安全を保てなくなります。〕
  - ・ダイヤル④を回しきった後、それ以上は締め込まないこと。
- \* 〔正常な機能や安全を保てなくなります。〕
  - ・ダイヤル目盛⑥の中間位置で使用しないこと。
- \* 〔正常な機能や安全を保てなくなります。〕
  - ・アダプタ①又は②のガス別特定部が変形、破損した機器は絶対に使用しないこと。
- \* 〔他のガスのアウトレットにつながり、ガスの取り出し間違い〕の原因となります。〕
  - ・配管端末器（アウトレット）に本器を接続するとき、カチツと音がするまで差し込んで使用すること。
- \* 〔落下し、破損する可能性があります。〕
  - ・使用しない時は、必ず配管端末器（アウトレット）から外すこと。
- \* 〔落下し、破損する可能性があります。〕
  - ・点検で異常の発見された機器は絶対に使用しないこと。
- \* 〔重大な人身事故につながる場合があります。〕
  - ・加湿ボトル等を使用する場合は、流量を確認した上で使用すること。
- \* 〔重大な人身事故につながる場合があります。〕

### \*【保管方法及び有効期間等】

#### 1. 保管方法

- 手入れ後、すぐに使用しないときは、所定の保管場所にて保管すること。
- 保管場所の条件：水のかからない場所であること。
  - 温度、湿度等が著しく高くない場所であること。
  - 振動等のない場所であること。
  - ゴミ、塵埃等が入らない場所であること。

#### 2. 耐用年数・使用期間

指定の保守・点検した場合の耐用年数：5年（自己認証）

（使用状況によって部品の劣化度合に差が生じ、場合によっては耐用年数に達する前に交換して頂くことがあります。）

### 【保守・点検に係る事項】

保守点検の詳細については、取扱説明書をご参照ください。

#### \* 1. 使用者による保守点検事項

##### (1) 点検項目

###### 《使用前の点検》

- ・アダプタ①にガス別特定用ピンの折れ、アダプタ①又は②に変形、先端のキズなどの異常はないか。
- ・ダイヤル④は緩んでいないか。ガタツキはないか。
- ・ひび割れあるいはキズが生じていないか。
- ・ダイヤル④を時計方向に回し、ダイヤル目盛⑥を「0」にしたとき、酸素の放出は止まるか。
- ・本体③とアダプタ①又は②は緩んでいないか、ガタツキはないか。
- ・本体③と酸素取出口⑦は緩んでいないか、ガタツキはないか。
- ・所要流量が確保できているか。

###### 《使用中の点検》

- ・取付状態は正常か。
- ・患者の状態に異常はないか。

###### 《使用後の点検》

- ・取扱説明書に従い手入れをすること。
- ・すぐに使用しないときは、配管端末器（アウトレット）から取外し、所定の保管場所にて保管すること。

#### \* 2. 業者による保守点検事項

安定した機能を確保するために定められた期間毎に保守点検を実施すること。

##### (1) 点検項目（3ヵ月毎）

- ・破損はないか。
- ・気密不良はないか。

##### (2) 点検項目（1年毎）

- ・流量の指示精度に異常はないか。  
（校正用計器を用いて測る）

### \*【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

#### エアウォーター防災株式会社

外国製造業者名：

HERSILL, S. L. (エルシル) （スペイン）

\* 販売業者[代理店]